

仙台すずめ踊り連盟 監修

# 仙台すずめ踊り 楽譜

## 目次

総譜 .....	1
仙台すずめ踊りの笛を吹くための 10 の運指…	8
篠笛パート譜(実音譜).....	9
篠笛パート譜(移調譜) .....	10
小太鼓パート譜 .....	11
大太鼓パート譜 .....	12
鉦パート譜 .....	13
楽譜解説 .....	14

2022 年

# 仙台すずめ踊り

仙台すずめ踊り連盟 監修

♩ = 120 きざみ

篠笛 (実音譜) 2 3

篠笛 (移調譜)

小太鼓

大太鼓

鉦

掛け声

掛け声

4 5 6 7

いくぞー                      おー

前奏

8 9 10

それ それ それ それ

11 12 13 14

R L R L R L

15 16 17

V

L R

本編

18 19 20

R RL R LR LR LR LL

R L R

Musical score for measures 21-23. The score is written in 4/4 time and includes a treble clef, a key signature of two sharps (F# and C#), and a common time signature. The notation features eighth and quarter notes, rests, and dynamic markings such as *z.* (zaccato) and *v* (accents). The score is presented on six staves, with the first two staves containing the melodic line and the remaining four staves providing accompaniment. Measure 21 starts with a quarter rest followed by a quarter note. Measure 22 begins with a quarter rest and a quarter note. Measure 23 starts with a quarter note and continues with a quarter note. The accompaniment consists of eighth and quarter notes, with some measures containing rests and repeat signs.

Musical score for measures 24-26. The score is written in 4/4 time and includes a treble clef, a key signature of two sharps (F# and C#), and a common time signature. The notation features eighth and quarter notes, rests, and dynamic markings such as *v* (accents). The score is presented on six staves, with the first two staves containing the melodic line and the remaining four staves providing accompaniment. Measure 24 starts with a quarter note and continues with a quarter note. Measure 25 begins with a quarter note and continues with a quarter note. Measure 26 starts with a quarter note and continues with a quarter note. The accompaniment consists of eighth and quarter notes, with some measures containing rests and repeat signs.

27 28 29

R L R

30 31 32

33 34 35

Musical notation for measures 33-35. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#). Measure 33 starts with a quarter rest followed by a quarter note G4, then quarter notes A4, B4, C5, B4, A4, G4. Measure 34 continues with quarter notes F#4, E4, D4, C4, B3, A3, G3. Measure 35 starts with a quarter rest followed by a quarter note G3, then quarter notes F#3, E3, D3, C3, B2, A2, G2. The bottom two staves contain slash marks indicating rests or specific performance instructions.

36 37 38

Musical notation for measures 36-38. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#). Measure 36 starts with a quarter rest followed by a quarter note G4, then quarter notes A4, B4, C5, B4, A4, G4. Measure 37 continues with quarter notes F#4, E4, D4, C4, B3, A3, G3. Measure 38 starts with a quarter rest followed by a quarter note G3, then quarter notes F#3, E3, D3, C3, B2, A2, G2. The bottom two staves contain slash marks indicating rests or specific performance instructions.

七つ止め

39 40 41

V

R L R L R L R L R L R L R

R L R L R L R L R L R L R



# 仙台すずめ踊りの笛を吹くための 10 の運指

この運指表は、仙台すずめ踊りに出てくるすべての音を、音階順に並べたものです。  
 上の楽譜は、リコーダーなどでお馴染みの「左手の指をすべてふさぐとソ」になる移調譜です。2#で書かれた「仙台すずめ踊り」の楽譜は、これに仕上がっています。  
 なお、この運指を七穴・八本調子の篠笛で吹いた時の実音を下の楽譜に示しました。  
 ※読みやすくするため、2オクターブ低く書いてあります。

《移調譜》

	ド	レ	ミ	ファ#	ソ	ラ	シ	ド#	レ	ファ#
左手	●	○	●	●	●	●	●	○	○	●
右手	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○
数字譜	0	替指	1	2	3	4	5	6	7	1

《実音譜》

# 仙台すずめ踊り

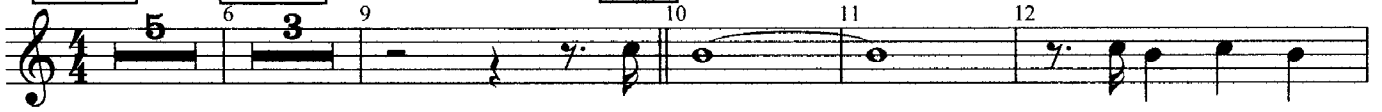
篠笛(実音譜)

♩=120

きざみ

掛け声

前奏



本編



七つ止め



# 仙台すずめ踊り

篠笛(移調譜)

♩=120

きざみ 掛け声 前奏

13 V 14 15 16 V 17 V

本編 18 19 V 20 V

21 V 22 23 V

24 V 25 26 27 V

28 29 V 30 V

31 32 V 33 V

34 35 V 36 V 37

七つ止め 38 V 39 V 40 41

# 仙台すずめ踊り

小太鼓

♩ = 120

きざみ

4/4

R RLR LR LL

掛け声

6

前奏

10

15

本編

18

20

R RLR LR LR LL

21

25

30

35

七つ止め

40

R L R L R L R L R L R

# 仙台すずめ踊り

大太鼓

♩ = 120

**きざみ** **掛け声** **前奏**

4 5 6 3 9 10 3 13 R L 14 R L R L

15 L R 16 17

**本編**

18 19 20 6/4 R L R 21 4/4

22 23 24 25

26 27 R L R 28 29 y.

30 31 32 33 34

35 36 37 38 39

**七つ止め**

40 R L R L R L R L 41 R L R L R

# 仙台すずめ踊り

鉦

♩ = 120

きざみ 掛け声 前奏

4/4 5 6 3 9 10 11 12

13 14 15 16 17

本編

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29

30 31 32 33 34

35 36 37 38 39

七つ止め

40 41

# 仙台すずめ踊り 楽譜解説

2022年 水野二郎

この楽譜は、2022年現在、広く演奏されている標準的な「仙台すずめ踊り」のお囃子を採譜したものです。「仙台すずめ踊り」は、1987年開催の第三回仙台・青葉まつりで「新・仙台すずめ踊り」として、八幡町に伝わって来た「すずめ踊り」に手を加えて披露され、現在に至っています。現在の「仙台すずめ踊り」は、多くの祭連により様々なヴァリエーションで演奏させております。そのため、どこまでが本来の「仙台すずめ踊り」なのか、どこが各祭連の創意工夫によるアレンジなのか、判りにくくなっております。この楽譜の意義は、本来の「仙台すずめ踊り」の姿を記録に残すことにあります。

以下、この楽譜の監修担当者として注意事項を述べ、文末に「八幡町に伝わって来たすずめ踊り」の姿と、1987年の「新・仙台すずめ踊り」での改造についても記すことにいたします。

## ●演奏にあたっての注意

### 【日本の音楽として】

この楽譜は、世界的に広く採用されている五線譜で表していますが、当然のことながら西洋音楽の演奏常識に振り回されないように注意してください。この楽譜だけを頼りに演奏するのではなく、様々な演奏の音源を聴くことをお勧めします。

例えば、西洋音楽では各小節の一拍目は「強拍」となり、他の拍より強く演奏しますが、すずめ踊りでは、そのようなことはありません。かといって、すべての拍の音量が同じという訳でもありませんが…。

笛の奏法も、西洋風にタンギングをするのではなく、任意の装飾を加えながらレガートで演奏します。同じ音の繰り返しの場合は「押し送り」…ふさいでいる指を押し直すような気持ちで、ほんの少し開け、すぐに閉じる奏法…を行います。息継ぎは、私の奏法を参考までに移調譜に記入しました。

### 【笛の実音譜と移調譜について】

「仙台すずめ踊りの笛を吹くための10の運指」のページでも触れていますが、この楽譜では、篠笛のパートが実音譜・移調譜、二つの楽譜で書かれています。実音譜とは、文字通り「実音」を2オクターブ低く記したものです。篠笛は、半音刻みでいろいろな長さのものが存在するため、同じ運指をしても、発生する音の高さは異なります。それをすべて実音で記譜すると、非常に読譜が困難になるため、多くの木管楽器がそうであるように「左手の指をふさぐとソ」と表記する移調譜を作成しました。実音譜は、ソプラノリコーダー・フルート・ピッコロ・鍵盤楽器などで演奏する際に用いてください。

### 【掛け声について】

1987年の改造で、「きざみ」が行われる事になり、前奏の始まりを知らせる目的で「いくぞ、おー、それぞれ」が生まれました。楽譜では、6～9小節にのみ「掛け声」が記譜されていますが、その

他の部分にも任意の「粋な掛け声」を入れて下さい。また、演奏開始の際は、お囃子のリーダーがテンポを示すために「よーおっ」と掛け声をかけるのも慣例化しています。

### 【太鼓の手順について】

小太鼓・大太鼓(両手打ちの場合)の、標準的な手順を記入しました。[R…右手 L…左手]  
伝承者の黒田さん達の手順もこのようであったと記憶しております。

### ●八幡町に伝わって来た「すずめ踊り」の姿

伝承者の黒田虎雄さんや黒田さんの弟さん従弟さんの演奏やお話、古い演奏の録音テープなどから、八幡町に伝わって来た「すずめ踊り」のお囃子は、以下のような姿であったと思われま

\* 篠笛の寸法が、現在の八本調子より半音低い七本調子を使用している。

\* 太鼓は「すずめ踊りの前に演奏される神楽のものを使用した」そうなので、小太鼓は縮太鼓、大太鼓は宮太鼓であったと思われる。

\* 鉦は、使用していない。

\* 小太鼓のバチは、生け垣などに多く植えられていた玉椿の枝(葉などは取り除く)を使用していたそうである。良く「しなる」ので、パンパンとリムショット的な音がしたと思われる。

\* 大太鼓のバチは、「中新田火伏の虎舞」で使用される円錐形の桐製ものであった可能性が高い。

\* きざみ・掛け声(いくぞ・おー)はなく、笛のメロディーの部分から始まる。

\* 任意回数繰り返した後、大太鼓の大きなドンという音で、演奏を終了する。

\* 演奏中「やれやれやれやれ」の掛け声が任意に入れられる。

### ●1987年の「新・仙台すずめ踊り」での改造

私は、この年の青葉まつりで復元された「新・仙台すずめ踊り」のお囃子の組頭を務めたので、この時の有様は昨日のここのように思い出されます。

\* 「きざみ・掛け声・七つ止め」は、この時に発明されました。それらが生まれた理由…お囃子のいない、当時の踊り手グループが「きざみ」にあわせて舞台に登場し、「掛け声」とともに踊りを開始して、七つ止めで「決めポーズ」をとれるようにしたのです。

\* 篠笛の寸法を八本調子に変更した理由…将来のソプラノリコーダーや鍵盤ハーモニカでの演奏をふまえて、白鍵のみでほとんど演奏できるように、半音高くしたのです。

\* 鉦を加えた理由…より華やかに響くように追加しました。

\* 八幡町に伝わって来た「すずめ踊り」では、大太鼓は、笛のメロディーと同時に叩き始めていましたが、1987年の大太鼓奏者のアイデアで、現在のような入り方に変えられました。

以上